



# 神奈川県鎌倉市立 岩瀬中学校

## 生徒の自己調整学習と教員の働き方改革 ～紙ワークをラインズeライブラリに置き換えて～

岩瀬中学校では、生徒の個別最適な学びと教員の働き方改革を促進するために、『健康第一』を基盤に、教員がチーム一丸となってさまざまな取組をしています。今回は、生徒の自己調整学習と働き方改革に、ラインズeライブラリを活用した実践をご紹介します。

### 授業のふりかえりは、自らの学びをメタ認知

数学：上原先生

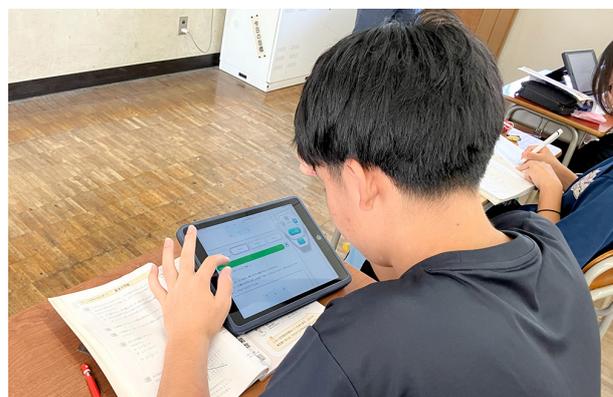
▲ 「ドリル（単元学習）」で理解状況を確認する

単元	難易度	学習タイプ
多項式の計算	☆☆☆	問題をのびす
因数分解	☆☆☆	手を動かす
式の計算の利用	☆☆☆	自分で選ぶ
平方根	☆☆☆	問題をのびす
根号をふくむ式の計算	☆☆☆	問題をのびす
2次方程式	☆☆☆	自分で選ぶ
2次方程式の利用	☆☆☆	自分で選ぶ
関数 $y=ax^2$ とグラフ	☆☆☆	重点を克服

学習タイプ

自由進度学習の後半は、ラインズeライブラリのドリルと教科書の演習問題から、自分の学習しやすい教材を選んでふりかえります。ドリルを選んだ生徒は、学習結果からナビゲートされる苦手や得意を確かめ、復習する教材を決めます。生徒は、限られた時間をより有効に活用できるように、目標とした復習範囲と学習時間を意識しながら、集中して取り組んでいました。

### 学習方法を見直し、自分に適した学び方を選択・決定



▲ 解答解説で途中式を見直す

学習を進める中、つまづきが多いと感じた生徒は、前の学年・系統の内容に遡って復習します。要点のまとまっている解説教材を読んで、解き方を見つけたり、解答解説で途中式を見直したりしながら、苦手の克服を目指していました。

類題に繰り返し取り組み、正答の経験を重ねることで、本時の内容に自信をもって再チャレンジする姿が見られました。

### インタビュー

### 学力層に応じた教材が、主体的な学びを後押し

数学では、「知識」を習得するときにはラインズeライブラリを活用し、グラフをかくような「技能」を習得するときには紙にかく活動を取り入れています。学習の目的に応じてデジタルとアナログのメリットを使い分けることが大切です。

ラインズeライブラリは、**問題が難易度ごとに分かれており、学年も遡って復習できるため、生徒一人一人が自分の理解状況に合った教材で学習できるところが良いと思います。**学力低位層の生徒は、これまで問題に取り組むことを諦めてしまう傾向でしたが、**選択肢があることで、答えから逆算して問題を解いていく姿が見られるようになりました。**また、学習進度の速い生徒は、**授業や塾で習っていない上の学年の内容に興味をもち、予習として取り組むようになりました。**



# 授業準備の効率化！授業計画の熟考時間を確保



▲ ドリルと解説教材の一例

上原先生は、単元末の理解度確認・習熟用の紙ワークや自作のプリントをラインズeライブラリに置き換えて授業をしています。「これまで単元ごとに毎回作問しており、かなり時間がかかっていましたが、その時間を大幅に削減できました」と上原先生。削減できた時間は授業計画を考える時間にあてられるようになり、教材費の削減にもつながったとのこと。

## Before

- 問題の難易度によるが、学習プリント一枚の作成に30～50分を要していた。
- 学習プリントの印刷時間や印刷費がかかっていた。
- 紙ワーク（問題集）の教材費がかかっていた。

## After

- 単元数の学習プリントを作成する時間を削減できた。
- 【概算例】25単元 × 50分 = 1,250分**  
**年間 約20.8時間の短縮につながった**
- 紙ワーク（問題集）の教材費を削減できた。

## インタビュー 風通しが良く、働きやすい環境をつくる



校長 鈴木 徹 先生

本校では、学校行事や研究発表など学校全体での取組を、チーム岩中として計画性をもって進めています。活動するときは、それぞれの経験やノウハウをチームで共有し、最大限の力を発揮できる、風通しの良い雰囲気をつくるのが大切です。そのため、意見交換や議論のときには、円滑なコミュニケーションが図れるよう、自身が間に入り、教員同士をつなぐことに心がけています。そうすると、自ずと「楽しい職員室」になり、働きやすい環境になります。環境が整っても健康でないと持てる力は発揮できません。全員が健やかな生活を送れるように『健康第一』を基盤に、教員たちと共に励んでいます。

良い環境から生まれたアイディアは、必ず生徒の学びにつながります。**ラインズeライブラリを紙ワークに置き換えて運用したのも、教員のアイディアで、生徒の個別最適な学びの促進と教員の働き方改革の成果になっています。**生徒にとって良いものを、今の授業スタイルにどのように入れていくかを、前向きに捉えて考えることが大切だと思います。

## 自分の理解度に合った問題が、「学びに向かう姿勢」を育てる

紙ワークを購入しましたが、生徒にとって問題が難しすぎたり、簡単すぎたりしており扱い方に困っていました。そこで、難易度が選べるラインズeライブラリが生徒の実態に合っていると思い、運用を開始しました。生徒は、挑戦問題からチャレンジして、難しいと感じたら標準問題から取り組むなど、**自分で難易度を調整しながら意欲的に学習しています。**英語が得意でない生徒も、**中学1年の内容から学び直し、昼休みの時間に積極的に質問するようになり、学びへ向かう姿勢に前向きな変化があらわれました。**

英語では、コミュニケーションを重視した授業を展開しているため、**文法問題を演習させる時間の確保が難しい状況でしたが、家庭学習や長期休みに取り組みさせることで文法の復習・習熟に役立っています。**



英語科 小茂田 風太 先生